


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 I V 】 |
| 2 実施対象者 | 筑前町立夜須中学校 1年生 144名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピズムの理念に触れ親しむことで、豊かに生きる力の育成 ・オリンピックムーブメントの進展に貢献 ・オリンピック・パラリンピック事業を通じて、スポーツの楽しみ方の多様化に興味関心を持つことで、学習意欲の喚起 |
| 5 取組内容 | <p>球技（ゴール型）を行う上で種目の選定に当たっては、技術の習得が比較的少なく取り組むことのできるラグビーでの実施を行った。</p> <p>1年生4クラス、男女共習、運動場にて全10時間実施。3小学校のうち、2小学校にてラグビー経験済み。その際のルールは前方へのパスあり。体育館での実施だった。</p> <p>第1時：ラグビーの実施経験確認、ラグビーの歴史。ラグビーワールドカップの日本開催について知る。タグの付け方 第2時：ルール確認、後方パスの仕方の練習、手つなぎタグ取り 第3時～第9時：試合を中心とした攻撃の練習。 第10時：試合の中でのスキルチェックテスト。</p> |
| |  |



左から
 マーカー：コート四隅において運動場でもゴールがわかりやすいように工夫した。
 ラグビー道具入れバック：ゼッケン等すべての道具を分けて入れ、生徒が運びやすくわかりやすいよう工夫した。
 ゼッケン：全員がゼッケンをつけて行うことで教員からも指示が出しやすく、生徒同士も対戦相手等がわかりやすくスムーズに運営ができた。
 ラグビーボール：少し緩めに空気を入れ、とりそびれても比較的痛くないよう工夫をした。

| | |
|---------------------|---|
| 6 主な成果 | <p>ラグビーワールドカップのクリアファイルを使ってオリエンテーションで紹介をしたことで、ラグビーワールドカップへの関心を高めることが大いにできた。ゴール型競技は初めてであったため、基本的な動き方ができず、最初はボールに集まることが多くみられた。試合前の攻撃に関する作戦を立てる時間をとったことで、空間を使ったパスや全員参加の攻撃につながっていった。どの生徒も意欲的に取り組むことができた。</p> |
| 7実践において工夫した点(事業の特色) | <ul style="list-style-type: none"> • 男女共習のため、チーム分けでは力が偏らないよう考慮した。 • 人数の構成を4～5人にし、コートを4面とすることで、できるだけ運動量を確保するようにした。 • 細かい技能のテストをすることにより、パスの技能や、フットワークを取り出して練習する機会を作った。 |
| 8主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> • なかなか練習に参加できない生徒もいた。 • ルールの徹底のためには審判が必要だが、教員一人では全チームを回れず、ルールの徹底には苦戦した。特に、タグをとった後のオフサイドのラインの徹底はできないまま終了してしまった。審判をけが等で参加できない生徒にさせた場面もあったが、それはうまくいった学級もあった。運動量を求めすぎて、審判への挑戦をさせるべきであった。 |
| 9来年度以降の実施予定 | <p>1 学年ゴール型の種目としてタグラグビーを導入する。(時期未定)</p> |